

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	18	大学等名	宇都宮大学
テーマ	テーマⅠ・Ⅱ複合型		

### （「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

#### 【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

#### 【コメント】

大学改革の加速については、全学的教学マネジメントに係る組織・体制や、多岐にわたるテーマ設定によるFDの開催等、FDの戦略的実施体制が整備・構築され、さらに、学修成果可視化システムの運用により得られた知見が教育改善のPDCAサイクルを駆動する原動力となっているなど、本事業における取組が着実に展開されており、今後の更なる大学改革が期待される。

事業の具体的な取組の進捗状況については、アクティブ・ラーニングの全学的推進、成績評価の平準化・厳格化の組織的取組、学修成果の把握に関する取組等が着実に実施され、また、学生発案型授業の開設、学生と教員による「大学での学びハンドブック」の作成、ラーニング・コモンズの活用など、学生の主体的な学びの促進が積極的に進められており評価できる。また、必須指標については、「アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合」等おおむねの指標において目標値を上回っており評価できる。一方で、「学生の授業外学修時間」は平成30年度までは着実に増加していたものの、令和元年度実績値は目標値未達かつ前年度実績値を下回ったことから、原因の究明と今後の更なる全学的対応が望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、機動的な教育改革を実施するため、令和元年度に「大学教育推進機構」を再編し、機構内に「教学マネジメント支援室」を設置されていることから、本事業を発展的に継続させる体制が確立されていると評価できる。また、補助期間終了後の事業について、「教学マネジメント工程表」に基づく具体的な実施計画を立てられるとともに、「教学マネジメント確立のためのガイドライン」にのっとり評価活動の展開が定められており、今後の全学的な教育改革が期待される。

事業成果の普及については、学生発案型授業、ラーニング・コモンズにおける学生スタッフの活動と学びなど、本事業の成果である学生の実践活動について、シンポジウム、フォーラム及び学会において本事業の普及が図られているが、更なる成果普及に向けて、なお一層の積極的な発信等を期待したい。